

# 第九卷 總目次

## 第一號

天體の迴轉運動(理學博士新城新藏) 一  
 長崎に於ける經度電信測量  
 の測點(田代庄三郎) 四

### 雜報

大氣中に於ける光吸收  
 木星の直徑の測定 六  
 木星の寫眞 七  
 小惑星エロスの變光現象  
 木星とツエツペリン 八  
 鯨座ミウ星 八  
 白鳥座六十一番星の視差  
 M級分光器的連星の分布 八  
 天狼星の伴星の觀測 八  
 巴里科學院賞 九  
 ボッス星表の新版 九  
 火山灰霧と氣候の變遷 九  
 米國アリゾナ州の隕石火口 九  
 東京天文臺を詠める和歌 一〇

## 五月の天象

太陽、月、變光星 一一  
 星の掩蔽、流星群 一一  
 惑星だより、天圖 一二  
 天文學解説(六)(理學士本田親二) 附錄二一

## 第二號

我國古代の日月食記録(一)  
 (理學士小倉伸吉) 一三

### 雜報

緯度變化に於ける木村項の起因に

天文月報

(第九卷總目次)

關する一説 一八  
 一九一六年彗星(ニューツァミン) 一九  
 恒星の密度 一九  
 恒星光度決定新法 一九  
 二重星の統計 二〇  
 鋭き視力 二〇  
 白蠟の流星 二〇  
 極光の高さ 二〇  
 南冠座R星附近の變光星  
 ドライヤー氏 二一  
 第十六回定會記事 二一  
 大正四年度學會報告 二一  
 東京天文臺を詠める歌 二二

## 六月の天象

太陽、月、變光星 二二  
 星の掩蔽、流星群 二三  
 惑星だより、天圖 二四  
 天文學解説(七)(理學士本田親二) 附錄二五

## 第三號

我國古代の日月食記録(二)  
 (理學士小倉伸吉) 二五

彗星さがし 二九  
 雜報 三〇  
 恒星の距離の測定 三〇  
 地球はハリー彗星の尾を通過した  
 るか 三三  
 惑星の光輝の變化 三三  
 一九一五年十月二日の火星の掩蔽  
 經度決定の一挿語 三三  
 不規則變光星牡牛座T星 三三  
 緯と傾と光差の差違に就いて 三四  
 一九一三年二月九日北米の大流星 三四

に就き 三四  
 一九一五年の彗星(テイラー)の軌道 三四  
 要素 三四  
 上層氣流とZ項との關係の研究 三四  
 豫洲に於ける日食 三五

## 七月の天象

太陽、月、變光星 三五  
 星の掩蔽、流星群 三五  
 惑星だより、天圖 三六  
 天文學解説(八) 附錄二九

## 第四號

歐洲に於ける曙光利用法案  
 我國古代の日月食記録(三)  
 (理學士小倉伸吉) 三七

### 雜報

標時球の成績に就きて 四三  
 大なる太陽紅焰 四五  
 火星の觀測 四五  
 ニウジミン彗星(一九一六年a) 四五  
 新彗星一九一六年b(ワオルフ) 四六  
 天空に於ける暗黒斑 四六  
 シュワルツシルト教授遊く 四六

## 八月の天象

太陽、月、變光星 四七  
 星の掩蔽、流星群 四七  
 惑星だより、天圖 四八  
 天文學解説(九)(理學士本田親二) 附錄三三

## 第五號

報時球信號に依る受時の精  
 度(田代庄三郎) 四九

我國古代の日月食記録(四)  
 (理學士小倉伸吉) 五二

### 雜報

曙光利用法案に就きて 五五  
 惑星軌道の統計的研究 五六  
 七十二吋反射望遠鏡 五六  
 星のスペクトルより距離を算出する法 五七  
 巨人星と倭人星 五八  
 緯度變化の研究 五八  
 平山博士の書簡 五八  
 金子秀吉君の訃 五八

## 九月の天象

太陽、月、變光星 五九  
 星の掩蔽、流星群 五九  
 惑星だより、天圖 六〇  
 天文學解説(一〇)(理學士本田親二) 附錄三七

## 第六號

食と霾(理學博士和田雄治) 六一  
 ジー・ダブリュ・ホル(G. W. Hill) のことども(理學博士平山信) 六四

### 雜報

太陽系諸星の光度と反射能 六六  
 白晝肉眼にて恒星を見得るか 六九  
 太陽スペクトルのG群の起原 六九  
 一九一六年の彗星とエンケ彗星 七〇  
 火星の觀測 七〇  
 銀河の組成 七〇  
 恒星界の無限空間に於ける運動  
 惑星の單色寫眞 七〇

## 十月の天象

太陽、月、變光星 七一  
 星の掩蔽、流星群 七一  
 惑星だより、天圖 七二  
 天文學解説(一一)(理學士本田親二) 附錄四二

(一)

第七號

銀河の光と宇宙構造論

(理學博士新城新藏) 七五

小惑星發見談(寺田尚造)

七五

緯度の寫眞的決定法

七九

太陽のレコード破りの大紅焰

八〇

高緯度の太陽黑點

八〇

天文曆に載する月の位置と觀測位置

八〇

分光儀的連星雙座の星

八一

固有運動の最大なる星

八一

電氣爐より得る帶狀スペクトル

八一

望遠鏡の最低有効倍率

八二

ボンス・ウインネツケ群星と流星雨

八二

大船座進行星團の軌道

八二

ケプラーID變光星のスペクトルの變化

八三

十一月の天象

八三

太陽、月、變光星  
星の掩蔽、流星群  
惑星だより、天圖  
天文學解說(一)(二)(理學士本田親二)  
附錄四五

萬有引力と溫度(理學士松隈健彦) 八五  
金星の最大光輝に就て  
(河合登二郎) 八七  
獨逸科學と羅典科學(ボツカルヂ) 八九  
雜報 八七

太陽自轉時間の變化 九一  
エンケ彗星 九一  
一九一六年八月二十六、七日の極  
光及び磁嵐 九一  
恒星のスペクトルとその相對光度 九二  
南冠座の變光星雲 九二

第十號

時計は何故十二時間に分けられたか(豊島)

一〇九

獨逸科學と羅典科學(承前)

一一〇

(ボツカルヂ述)

太陽面上輻射の分布

一一三

連星による太陽向點の決定

一一三

昨年星の獅子座流星

一一三

新彗星一九一六年

一一四

蝕連星ヘルクレス座の星

一一四

バーナード馳走星に就て

一一四

分光器の分解能

一一五

肉眼にて識認し得べき最小光輝

一一五

船橋無線電信局の報時信號

一一五

カルル・シュアルツシルトの傳

一一五

一九一六年七月、八月中に於ける大

氣の光學的混濁

一一七

本年中の日月食に就き

一一七

ツルヘルレン氏  
大正六年北極星の子午線經過と最  
大離隔表  
一月八日の月食觀測  
二月の天象  
太陽、月、變光星  
星の掩蔽、流星群  
惑星だより、天圖  
天文學解說(二)(五)(理學士本田親二)  
附錄五七

第十一號

東洋に於ける星垣及び星象

一一一

(小野清)

舊幕時代の天文臺の位置

一一六

(理學士大谷亮吉)

雜報 一一六

地球に極めて近き小惑星

一一四〇

共通運動を示す二つの星の視差

一一四〇

星雲 N.G.C. 4594 の旋轉及び視線

一一四〇

速度

一一四一

變形星雲 N.G.C. 2261

一一四一

焦點外光度測定法

一一四一

光速度の發見とレーメル

一一四一

長週期變光星の變光曲線

一一四二

一九一六年巴里科學院賞

一一四二

國技元治氏の歸朝

一一四三

フナナシ氏逝く

一一四三

四月の天象  
太陽、月、變光星  
星の掩蔽、流星群  
惑星だより、天圖

一一四三  
一一四三  
一一四四

第十二號

無線電信による時刻の報知の成績(帆足直直)

一一三五

獨逸科學と羅典科學(承前)

一一三七

(ボツカルヂ述)

地球に極めて近き小惑星

一一四〇

共通運動を示す二つの星の視差

一一四〇

星雲 N.G.C. 4594 の旋轉及び視線

一一四〇

速度

一一四一

變形星雲 N.G.C. 2261

一一四一

焦點外光度測定法

一一四一

光速度の發見とレーメル

一一四一

長週期變光星の變光曲線

一一四二

一九一六年巴里科學院賞

一一四二

國技元治氏の歸朝

一一四三

フナナシ氏逝く

一一四三

四月の天象  
太陽、月、變光星  
星の掩蔽、流星群  
惑星だより、天圖

一一四三  
一一四三  
一一四四